

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担）研究報告書

「患者体験調査」の推計方法と項目無回答に関する研究
研究分担者 樋田 勉 獨協大学経済学部 教授

研究要旨

平成30年「患者体験調査」の調査設計を反映する適切な精度評価の方法を検討した。また、項目無回答について分析し、いくつかの無回答パターンの関連性を見いだした。

A. 研究目的

本研究の目的は、(1)平成30年「患者体験調査」データの集計段階において、調査設計を反映する適切な推定値の計算と推定値の精度評価を行うこと、及び、(2)本調査の項目無回答について検討を行い、本調査のより詳細な分析や、次回調査の調査設計や調査票の改善方法を検討することである。

B. 研究方法

(1)本調査は都道府県×施設の種別を1段目の抽出の層として施設を抽出し、施設内のがん種別を2段目の層として患者を抽出する複雑な調査設計である。各層における調査対象施設数が少ないため抽出施設や抽出患者の無回答で、標本が存在しない層が発生する。この場合、層の統合を行うことで、適切に精度評価が行えるように工夫した。

(2)項目無回答の数、欠測率、欠測率と他の変数との関係等について、回帰木などを用いて分析した。

C. 研究結果

(1)今年度までの研究により、単位無回答の処理には、母集団情報を利用するカリブレーションウエイトが利用可能であるが、利用可能な補助変数では、精度の大きな向

上は見込めないため、Bで述べた工夫の後、通常ウエイトで推計した。(2)類似した内容は同時に欠測しやすい傾向や、ある項目の評価と他の項目の欠測が関連する傾向など、いくつかのパターンが見られた。

D. 考察

(1)基本的な集計項目は、都道府県別で十分な精度が得られたが、選択肢が多い集計項目は、都道府県別で集計値の精度が十分ではない。

(2)欠測パターンの検討は、分析の余地が多く残されており、次回調査における調査設計にも有益である。

E. 結論

本調査結果には貴重な情報が含まれる。調査結果の詳細な分析や無回答の効果的な処理方法の検討は、調査結果のより有効な活用のために必要である。また、今回の課題や分析結果を次回調査における調査計画の改善につなげていくことも今後の課題である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし